

常警每日新聞

定額一紙金五錢 一ヶ月金五拾錢 三ヶ月金一圓二角 半年金二圓二角 一年金四圓二角
廣告料五錢 十二字第一行金五拾錢
日曜、祭日の日、休刊
發行所 常警毎日新聞社
編輯所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社

成辰の覺書

漆原市郎左工門手記

平陽老人

一六月廿九日長橋向迄迫り候節所々相迫り差部仕夜に入薬王寺台邊より長橋町其分相迫り差配仕候同日御立關發御櫓に有之候御重器御廣間番目付江相渡爲持出申候
一同日御隱居様御立退被遊候一各藩兵隊着日限人員等書留無之相記兼申候
一七月朔日朝前夜米澤兵隊着残り人數隊長着に付市郎左衛門、小川彌五右衛門罷出搔榎小路加茂下屋敷に而談判中好間口江相迫り候由報告有之其節古田山三郎參り談合米澤藩着會食を不仕極速に好間口並町裏江線出申候
但好間口より引取町方へ出候事と奉存候 隊長軍目人名山吉源右衛門、直海新兵衛、高村三郎右衛門、登坂與一右衛門、三本左近、佐伯茂右衛門、小貫忠兵衛、青木藤左衛門、佐藤吉三郎同日町裏迄相迫り候に付御城内に而差圖仕又田町より三町目邊相迫り差配仕る同日新川町口手薄之趣に付大砲方召連胸壁築立之儀

高橋奎之進、村上六郎江談候其節米澤六七人出張罷在候關門取建奎之進差配行届候趣市郎左衛門引取後米澤と談合出張申候一七月三日御隱居様淺見川に被爲入候に付御用向夜中山藥十二郎同道罷越翌四日御供にて歸着仕候
一七月九日御勝手御用向に付仙臺表江出役被仰付平直太郎同道同日夕刻平出立十日相馬領幾世橋村に大御與様被爲入候間伺機嫌申上同十一日中村城下江着同藩阿部助八面會當節平表各藩御人數追々入組白米搗立間に合不申候

ノート

ぬけ毛を 防ぐ養毛 法の一つ としてワカメ昆布ヒジキ を食べると効果がある

間先つ五百俵急運送相頼候處早々相送り可申旨に付同所出立同十三日仙臺城下佛眼寺江着同十四日平直太郎、山田彦太夫六月申より出役三人同道應接所松の井局江出仙臺大槻平大江被申述候趣意

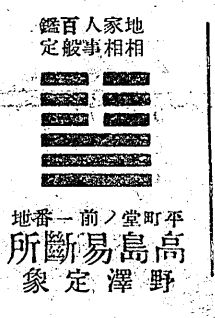
凡兼而申上置候警城平城附僅貳萬石餘に御座候處今般非常之大事件以來莫大入費何分此上出金方は無之次第此節多人數入組弊城危急之今日に至申上候者殘念に奉存候得共僅之土地殊に貧地是迄再三出金申付候事に付此上才

【朝】でんぶ：鯉節 せんぶ
【晝】松茸めし：みつば 鶏卵とし
【晚】旨煮：栗旨煮 芝え び付やき

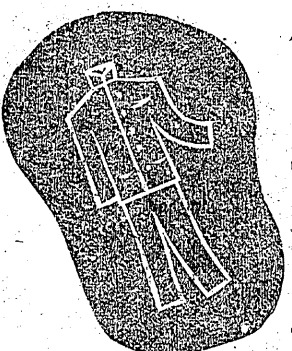
候に付廿四日同所出立早追に而廿六日相馬幾世橋江參候處御隱居様長塚に御止宿に付同所江罷出伺御機嫌翌廿七日阿形四郎右衛門不快に付同人組平士隊御領出兵可仕様被仰付同日夕奈女津村に出張仕候但平士隊彈藥不足に付小山又左衛門隊と交代出兵に付平士隊休兵同廿八日小藥平二郎、市原初太郎爲御使來り候に付同道熊ノ町本陣江罷出伊藤軍左衛門と談合中同宿南之方に有之候關門破れ多人數脱走に付同所危急奈女津江引取隊長上坂助太夫殿へ申上同所引揚間道より往還江出候處小山又左衛門一戰致引揚來候間貳小隊相捕長塚江參候處御隱居様御出立之被遊候に付幾世橋江引揚熊ノ町より二里半餘夜に入小高江引取同廿九日原ノ町江着仕候同日請戸出張味岡重左衛門尾直右衛門隊夜半過同處江引揚來候

【注意南北凶】五、今迄苦勞せし問題も今日持ち明くの吉日なり水火の難に注意【六日】新金の件が革心の爲に損害を來す事あれば怪俄紛失にも注意未申丑寅凶【七赤】望事の爲に奔走して反つて凶を醸す事あれば現狀維持が吉東西凶【八白】目上の信を受け益々吉となる日なれば謙遜以て猛進する勿れ辰巳と戌亥が凶【九紫】萬事凶を醸す日なれば退き守るに吉古き事件で争論を起す勿れ

覺無之當惑に付何卒以御憐愍拜借金被仰付候様相願候旨申述候處早速重役江可申旨其後度々罷出催促仕候事同十八日夜三春藩より途中に而羽州某より承り候は警城平御開城に相成候哉之噂有之候に付翌早朝松の井局へ罷出承り候處警城出張之者歸着致候處御落城之趣に而仙兵木戸邊迄引揚候趣委曲承り候事には無之彌左様に候は御氣之毒之至申聞候間早飛脚差立可申之處川支に付見合廿二日夜に入御開城之趣飛脚到來仕候に付兼而願出置候金子御渡被下候様催促仕候處漸金子之儀相認



【白】遠方取引に注意せぬと損害を蒙る事あり戌亥と辰己が凶【二黑】我が望事に絡を得るの大吉又金も手に入り喜悅の重なる吉日なり東西凶【三碧】外見良く内心に苦勞の増す日なれば怠慢より大怪俄せぬ様なさい未申丑寅凶【四綠】營業上喜悅のある日なれど水火の難と



小学生用(長ズボン付)
A 90円
B 1.10円
特製 2.50円
中学生用
特製 6號 3.50円
御注文(特上) 6.50円
ふかや洋服店 平陽 三 203

黒小倉通學服賣出
冬服の御用意をなさいましたか
弊店は御満足の頂ける黒小倉服を
澤山取揃へ特価にてお務めしてお
ります

市原醫院
平町 田町
電話 一一四番

味覺の秋を樂しみ得る

香氣の高い 松茸
料理を始めました
出前 迅速
錦水
電四五四

時代ハ有價證券デス

手輕ナ理想的六分五厘配當當社ノ御利用ヲ乞フ。
簡單ニ金融モ致シマス。
各地出張所代理店募集。
高級社員招聘
帝都證券株式平支部
平町白銀町松崎ビル内
東京モリス會社トハ全然別會社デ關係有リマセン
誤解ノ無イ様願ヒマス。

太陽顔ソース

一本日質品
太陽顔ソースの
御存知ですか！
快味を!!!
是非御試下さい
平一丁目(電話三三三番)

吉田眼科病院

平町屋本店
平各販賣店
平町屋町、電話六八番

臺所から一日一錢の節約で婦人會館建設

平婦人會が既成會を組織 一ケ年の辛棒で實現する

昨日平婦人會の幹部會席上公會堂を持たぬ平町が種々の會合に極めて不便を感じざる場合の多い事が話題にのぼり副會長曾我夫人の首唱に依つて平町婦人の運動に依る會館建設案が提議された、その案に依ると臺所から一日一錢宛を節約する事が

基本こなつて居る點

が婦人の手に成る會館建設運動としての實際に即した妙味がある、即ち一日の節約高一錢宛を日掛けとして據出するとすれば一ケ月に卅錢こなる、同會の會員數は現在九百數十名であるから一千人と見て一ケ月に三百圓、一年の總額は三千六百圓となるから此の金を土臺にして會議室、割烹實習室、作法室、托兒所等を網羅した婦人會館を

建設する目論見

であるが若し平町の公會堂建設が具體化すればその費用の一部は此の據出金を寄附しても可成りといふ、また婦人會館の地代其他の維持費は他會合の賃貸料及び婦人會や、女、青

郡農會から 視察に出發

石城郡農會議員叶多清氏外七名は二泊三日の豫定で来る六日午前五時三十分平驛發列車にて農産物の發達せる長野縣伊那地方及び静岡縣地方の視察に出發する

此上削減されては 町の發展上支障を

小名濱商港工事陳情

石城郡小名濱商港計畫は最初豫算三百八十八萬圓であつたが現在三百萬圓に削減されたものにて明年度再び削減される様な事あつて陳情に出發した

農産物を倍加

大浦村の更正計劃

石城郡大浦村は經濟更生指定村としての實績を擧げる爲め各部落毎に農産物實行組合を設立して二毛作及び水田裏作の獎勵を圖り菜種、大麥、紫雲英等の生産額を例年より倍加する計劃を立て是等生産品販賣の爲め全村農産物實行組合を同村産業

對抗競技

優勝は三組

警中では昨日放課後一年生の各クラス對抗競技會を催したが總得一組十八點五

分、二組二十二點五分、三組二十六點、四組十四點五分、五組十六點五分にして三組が優勝した、因に各種目の一等は左の如くである
(百米) A 十四秒三五組 鈴木弘之 B 十四秒九三組 阿部新平(二百米) A 二十八秒二組新妻(三百米) A 八秒三組鈴木之助(四百米) A 一分一十一秒四 四組 小野忠弘 B 一分十八秒五 組小野富房(八百米) 二組 二分三秒五組チーム中川

けふ迄の繭取引

晩秋蠶の平均四十二二圓

四倉繭市場昨日の取引状況は千七百五十四貫三百十匁と云ふ近來稀らしい數量を見せたが相場は依然下押し氣味で最高が四十三圓、最低三十五圓二十錢、馴四十圓である、尙同市場で去月上旬より本日迄に取扱つた秋繭の總量は二萬四千六百十六貫此賣上代九萬七千七百七十圓に達し初秋蠶は平均して五十圓をもち續けたが晩秋蠶に入つて四十二二圓に値下りした

一番早く 工事完了

鹿島匠救事業

石城郡鹿島村では本年度匠救事業として七月下旬より同村三坂地内に工費三千圓の道路改修工事を行つて居るが農繁期の準備にかゝるので極力工事を急いだ結果

最大改修

江名で竣工

石城郡江名町では去る四月より工費一萬四千二百五十圓を以つて郡下災害工事中最大の村道改修工事を同村折戸地内に施工中の處昨日竣工したので近く小林平土木監督所長が竣工検査を行ふ

各級對抗野球

野球部では明日放課後第二回校内各學年クラス對抗野球試合を催すが組合せは一ノ五對一ノ三及び二ノ五對二ノ三である

質物一般

夜九時迄出入れ致します

三井質店

平四(電話六〇六番)

内科一般

難波 陸

醫學博士 平町大町新川端 電話五〇二

御華容様本位の弊店で今回「ひな鳥水たき」の季節の松茸料理を始めました。風味を吟味した上精々勉強して御奉仕する者ですから何卒御尊來御試食の程御待ち申して居ります。

ひな鳥 水たき 季節の松茸料理

料理は毎日献立を替えて調理致します ◎御宴會出前は如何様にも御相談に應じます

平町字紺屋町

住吉屋本店

割烹部 電話一五九番

玉炭 平驛前 石炭 阿部石炭商店 コークス 電話三七番

磐女バザー 大人人気

最初の試みで 學校が大張込

磐城高等女學校のバザーは開校以來最初の試みとして勢からず
期待され、て居るので學校でも大意氣込みで準備に忙殺されて居る當日の出品點數は五六千點の見込みで生徒の針自慢の裁縫や技藝品はもとより教えられた

篠山校長けふ來任

職員一同谷口で歓迎會

平第一小學校の新任校長篠山廉氏は本日平着午後午後零時五十分平着にて來任驛頭には酒井助役、井上保護者會長其他職員生徒多數出迎へを爲し直ちに自動車學校に向つたが第一校職員一同は午後四時より二丁目谷口樓に於て歓迎會を催した

平町會開く

来る五日に

平町では来る五日午後一時より役場會議室に町會を開き左記案を附議すると
一、行政訴訟参加に關する件
一、町有地貸付に關する件

婦人總會

大體廿一日

平町婦人會にては昨日午後一時より町會議室に青沼會長山崎、會我兩副會長其他幹部參集役員會を開き總會期日を決めたが廿二日午前十時と決定したが前日は女子青年團が總會を開くと

磐女出品決定

磐女では来る十七日木本縣男子師範學校に於て同校創立滿六十週年を記念し催される成績品展覽會の出品者を左の如く決定

- (圖書)一年遠藤スエ 同松本節惠 二年小湊都子 同佐藤チヨミ 三年金成ミヤ 同渡邊ミサ
- (書方)一年荒川ハナ子 同飯島しげ 二年長谷川公子 齊藤喜代子 三年熊澤岩子 同野村智子
- 江名稻作坪苜 石城郡名江町農會では来る六日午前九時より全町内稻作の坪苜品評會を催すが審査長は郡農會青山技手であると

二百名の求人 僅か十五名だけ

好條件の人夫募集 他地方の爲めに溢る

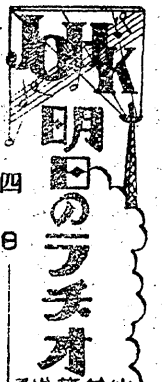
石城郡内郷、湯本等炭礦地には匡救事業に従事せる土工夫の失業者が居て時折二十三名一團となつて村役場に救済方を願つて來るが是等の入達へ平職業紹介に一日、八九十錢で働く人夫二百名と云ふ大量申込みが相馬郡上真野村の縣管道路改修事務所より來て居り、紹介所でも盛んに宣傳して希望者を集めて居るが、他地方に出働するのを嫌つてか希望者少なく來る五日に紹介所の手から送られる者は僅か十五名に過ぎないと

知事婦人を迎へ

平愛婦が懇談會

愛國婦人會平支部では本縣支部長細山靜江氏知事夫人の來平を期として来る六日午後一時より磐城高等女學校に於いて役員懇談會を催すと

磐崎唧筒披露 石城郡磐崎村消防組で本三日午



明日のラジオ 今晩も明日のラジオ 風晴曇半

- 今晩の部
- 後六、〇〇 幼年童話「トミコさんの風船」塚越花子
 - 後六、二五 基礎フランス語講座 日黒三郎
 - 後七、三〇 運動講座「今年の野球争覇戦」鈴木惣太郎
 - 後八、〇〇 夜間演藝一講
- 明日の部
- 談「佐倉宗五郎」實井馬秀
 - 後八、三〇 浮世節「たぬきの曲」立花家橋之助
 - 後八、五〇 映畫劇「東京祭」鈴木傳明、夏川靜江、その他
 - 後九、三〇 A 時報ニュース 氣象通報 番組豫告

- 前六、三〇 基礎英語講座(十一)岡倉由三郎
- 前九、一〇 料理献立「白菜のブレゼ」朝倉長吉
- 前一〇、三〇 家庭メモロキ放送部編輯
- 前一〇、三五 家庭講座
- 後〇、〇〇 五洲滿洲より
- 後二、〇〇 家庭大學講座「現代風俗畫に就て」伊藤深澤水
- 後六、〇〇 子供の時間
- 後六、二五 講演 横須賀鎮守府司令官海軍大將野村吉三郎
- 後六、二五 講演 横須賀鎮守府司令官海軍大將野村吉三郎
- 後八、四〇 N「田毎の月」(長野縣更級郡城山放光院長樂寺より)
- 後八、五五 J「七尾城跡」(石川縣七尾灣七尾丸より)
- 後九、〇〇 G「太宰府の月」(福岡縣筑紫郡永城村都府樓跡より)
- 後七、三〇〇 (滋賀縣石山寺より中継)
- 後七、五〇 A「銀座の月」(銀座三越屋上より)
- 後八、一〇 V「大沼湖上の月」(函館市外大沼公園より)
- 後八、二五 H「宮城野の月」(仙臺市宮城の原より)
- 後八、四〇 N「田毎の月」(長野縣更級郡城山放光院長樂寺より)
- 後八、五五 J「七尾城跡」(石川縣七尾灣七尾丸より)
- 後九、〇〇 G「太宰府の月」(福岡縣筑紫郡永城村都府樓跡より)

裁判所だより

石城郡内郷村大字綴字町内六五日雇業青木元壽(三)大字白水濱井場一採炭夫加々美篤三(三)大字高坂字御殿山一運輸雜夫後藤長之助(三)大字宮宇宮澤六二日雇吉川幸太郎(三)大字内町宇金坂七三疾礦雜夫佐々木豊吉(三)大字綴字町内四五無職荒木キヨ(三)の六名は賭錢罪に依り幸太郎豊吉は各罰金三十圓宛、傷三、元壽、元之助、キヨは各罰金二十圓宛に本日各平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

平職案紹介所報告

- △求人を求める方
△會勤 三十才尋卒 月十圓位(平町某)
- △鑄物工見習 十八才尋卒 仕着小遣(平町某)
- △豆腐賣子 三十前後 賣上の二割外面談(平町某)
- △回職を求める方
△製材職 四十三才 高卒 給料面談(平町某)
- △給仕 十七才 高業半退 給料面談(平町某)
- △材木店員 高卒 給料面談(田人村某)
- △石工 四十一才 尋卒 給料面談(内郷村某)

標本用に 本郡産梨

石城郡農會の農會の幹旋で東京市場へ盛んに進出する石城梨の注文は本年一萬五千箱の多きに達した



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第五十五回 血に飢ゆる村正

まつはる因果話

武正は我爲には重代の賜もの、其の昔都築武左衛門殿正則公より拜領を致した村正である、水も留らぬと云ふ所から此の通り籠釣瓶といふ金鎧まで入つて居る品なれど、どうも此の籠釣瓶を差すと得て氣も荒くなり某も此籠釣瓶があればこそ先達で物語りを致した通り、本多唐之助殿御前に於いて八重垣主水を一刀兩断それ故に主家を浪人、生前に頼みと申すは、此の村正を拙者が落命致した後はどうか當家の菩提所觀音寺へ納めて貰ひ度い、貴公嘸欲しからう、遺品として手許へ差し置きたいといふ氣もあらうが、必ず差せばそれが爲に身を滅すやうな事も出来れば、武助の遺言を全うして、必らず觀音寺へ納めて貰ひ度い。

と見えて、ウームと、仰向けにそり返る様子、次郎左衛門は人を呼び直ちに醫者などを迎へました。モウ間に合ひません、とうとう亡き人の數に入りました、死骸の儀は届ける所へ届け自分の菩提所觀音寺へ、葬式は立派に致されました。



山本英春画

次「吳々も仰の趣き、承知仕りました、まだ外に仰殘される事もあらば御遠慮無く仰しやつて下さいまし」武「イヤ、もう外に申殘す事はない」と云つたのが此の世の別れか、都築武助高茂に差し込みが参りましたもの

扱て其の時に遺言通り籠釣瓶村正を寺へ納めて了へばよかつたのをなまじつか武助先生から傳來の事を聞き、尙福島正則の秘藏にした名刀と聞いて見ると、どうも欲しくなりました、依つて寺へも納めず自分の家

小松村に居りまして、御領主戸田長門守殿より苗字帯刀御免の醫者で小松原に居て小松原を名乗ります小松原有益といふ人がござい、子供が二人あつて、總領を次郎吉、ひ次男を次郎三郎と申しましたが、次

へ置きましたが終には拵へを直して道中差にしたのが却て災ひの種でござい、此の村正があつたればこそ亮保の七年五月五日の日に新吉原五町の廓を騒がせ、百餘人の人を切つて、大岡越前守殿の御調べを受けるやうな事になりました、是が全く次郎左衛門の身を破ります、劍に心の附かないのは凡人の淺間しさでござい、溯つて申上まするが次郎左衛門が生れも附かない面相に相成りました、世に云ふ因果應報でござい、まして、仕方がございませ、此の次郎左衛門の祖父に當る人は、野州佐野の在

男の方は極穩かな質でござい、總領の次郎吉は醫者の家に生れながら學問も碌に致しません、年頃になると忌に女の跡を追ひ廻したり手慰みが好きでござい、たけれど生れ附の美男でござい、ますから女などは却て次郎吉を慕ひます位、是れが爲めに家にも居られず何かに附けては金を持出し博奕ばかりいたして居り、するゆゑ、父有益は所詮小松原の家は次郎吉に相續はさせることが出来ない、次男の次郎三郎に相續をさせやうと思つて段々學問などを仕込んで見ると、能く覺え醫術も若い者のやうではない、親切に病人を扱いますので、若先生といふ位から云はれる位でござい、ます、夫に引替て次郎吉はとんと家には寄り附かず、柏田村といふ所で博奕の上の間違ひから目沼の金八といふ男の左の腕を折つたといふので、了ひは小松原の家へ捻込まれました、此の時も有益が金を出して内濟にしましたもの、以來近村へでも足踏をする事はならんと云はれ、夫でも母の情にて二十五兩の金を貰ひ、次郎吉も恰度二十四の年でござい、ました、小松原を家出をなし、佐野の犬伏へ来て目明しをしてゐる焼金の鐵藏の處へ参りまして、少々の縁故を以て鐵藏の家にゐる事になりました、此の鐵藏は目明しをして居りますが、表向きの商賣は蕎麥

屋を致して居ります、次郎吉も見やう見真似で蕎麥を打つ事を覚え、此頃では板前や釜前を手傳つたり氣輕く働いて居るので、鐵藏も氣の毒に思ひ目を掛てやりました、其中に好きな博奕ゆゑ時々家を明ける事もありましたが阿母から貰つた二十五兩は夢のやうに消えて了ひ、ないか意見の惣仕舞で次郎吉も外へも出ずに蕎麥の方を手傳つて居りました。

看護婦急派の求めに應じます

平看護婦會 電話三〇七番

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院 平町南町 電話一〇七

外科

門專光X 科線

上田外科醫院

平町南町 電話一二九番

確實親切は

正木織物店ノ生命也 絹織物、正木織物店へ 開業三十五週年を祝するため 二割引にて大々的勉強御註文に應ず 御註文ノ時(呼出六七四番)へ店員伺ヒマス 平町字新町貳十貳番(公園下) 白生地 賃織販賣 正木織物店

秋!

爽やかな秋の旅を不二の車で 日光鬼怒温泉附近案内一部差上げます

不二タクシー 電話32番

新 出賣節鯉



魚問屋 店理代平命生本日大最優最 榮盛賀志 (三一電)目丁四平